

日本基督教団
柿ノ木坂教会

牧 師 渡邊 義彦
協力牧師 松下 恭規

教会報

171号 2015年10月4日

〒152-0022

東京都目黒区柿の木坂

1-31-19

電話：03-3717-3870

Fax：03-3717-3916

巻頭言

「福音の過去、未来、現在」

——フィリピの信徒への手紙第1章3～6節——

牧師 渡邊 義彦



わたしは、あなたがたのことを思い起こす度に、わたしの神に感謝し、あなたがた一同のために祈る度に、いつも喜びをもって祈っています。それは、あなたがたが最初の日から今日まで、福音にあずかっているからです。あなたがたの中で善い業を始められた方が、キリスト・イエスの日までに、その業を成し遂げてくださると、わたしは確信しています。

(新共同訳聖書)

使徒パウロからフィリピ教会に宛てて送られた手紙は「喜びの手紙」と呼ばれてきました。この手紙を読んでゆく中で「喜び」という言葉にいくつも出会ってゆきます。フィリピ教会は、パウロにとって喜びをもって思い起こすことのできる教会だったのでしょう。

「喜び」がキーワードになるほどに多く使われています。けれども、単に「喜び」が繰り返し使われていることだけで、この手紙が、「喜びの手紙」と呼ばれているのではなくて、フィリピ教会とパウロたち伝道者との関係がとても良い関係にあって、互いが同じ方向、ひとつの目当てを目指して、そこにこそ、目を向け、顔を向けて、全身全霊、全存在を、教会も、伝道者たちも向けて、すべてを傾け、

注いでいることが手紙からよくわかるのです。フィリピ教会と伝道者パウロが強い信頼に結ばれていました。

手紙を読み進めますと、パウロが、今、牢獄に囚われていて、この獄中から手紙を書いていることがわかります。さらに先には、パウロは、刑がすぐにでも執行されるのさえ覚悟していることを告げています。

人間の思いとして見るならば、とても喜ぶことのできない状況に置かれています。このような中で喜びを語るのは、パウロのやせ我慢でしょうか。ひがみや皮肉で「喜ぶ」と言っているのでしょうか。手紙全体から、この手紙だけでなく他のパウロの手紙も、また新約聖書全体も、そして旧約聖書をも含めた聖書全体から、パウロの語る喜びを読むとき、そして、パウロとテモテの関係、伝道者たちと教会の関係、神の言葉を取次ぐ務にある者たちと信徒たちの関係にまで思いを致すとき、そう読むことはできないのです。

人間の自然な思いとしては、「喜ぶ」という言葉を使うことがまったくためらわれるような状況の中で、しかし、パウロが「喜び」を告げるとき、そこには、やせ我慢や皮肉といった

暗さや陰は微塵も見られません。本当の喜びをもって、フィリピ教会の兄弟姉妹たちと喜びを確かめ合って、互いに励まし合っているのがよくわかるのです。

パウロはこのように言います。

「わたしが喜びをもって祈ることができるのは、あなたがたが最初の日から今日まで、福音にあずかっているからだ。」

教会建設が始まる最初の日、リディアとの出会いではじまったフィリピ教会建設のはじまりと、教会のフィリピ伝道開始、その日以来、フィリピの教会は福音にあずかり続けてきたことが喜びをもって祈ることのできる理由だ、とパウロは言うのです。喜びをもって、あなたがたを思い起こし、あなたがたのために、いやあなたがたと共に、神に祈ることができる、と言うのです。

そして、ここでパウロがはるかに見ているのは、今のこと、現在のことだけでなく、また、はじまりの日のこと、過去のことだけでなく、足もとと後ろを振り返ることだけでなく、今は、お互いに離れていても、顔と顔を合わせて肉声で、身振り手振りを交えて語り合えなくとも、それぞれが、今、置かれてあるところで、しかし、同じ目当て、同じ目標、同じゴールを目指して同じ福音を携えて今を生きているのだ、ということ、つまり、過去からはじまり、今を貫いて、未来に向かって伸びている確かな一本の道、真理の道を、今も、あなたがたも、わたしたちも確かな足取りで歩み続けていること、このことこそが喜びの理由だ、と言います。

キリスト・イエスは、あなたがたの中に善い業を始めてくださった。キリスト・イエス

が、この善い業を定められた時に完成してください。このことを確信している。

なぜ、二千年前、ほんの小さな教会に送られた一通の手紙が、このように古びることなく絶えず新しく読まれてきたのでしょうか。過去にはじまり、今を貫き、キリスト・イエスの日につながってゆく道に歩む者たちは、手紙に記されている喜びを共にすることができるからだ、と思うのです。パウロとは、文化も、環境、状況も違ったところにわたしたちはやって来ています。二千年のときを経ているのです。テモテやシラスとも違う。リディアとも、フィリピ教会の兄弟姉妹たちとも、フィリピの牢獄の看守、そして彼の家族たちとも違う。フィリピ教会が置かれている地球のこちら側とあちら側ということ以上に、過去と現在には大きな違いがあります。

しかし、時代が違い、環境が、状況が違ったとしても、この手紙に語られてある本当の喜びは、わたしたちのまわりのことがどのように変転していったとしても、この喜びも、この良き知らせ、福音も変わることなく、これを信じる者たちを励まし生かし続けます。

であるならば、このフィリピの教会に宛てられた手紙は、柿ノ木坂にいて、キリスト・イエスに結ばれているすべての聖なる者たちにも宛てられた手紙であり、それだけでなく、これまで生まれてきたすべての聖徒たち、そして、これから生まれるすべての聖徒たち、すべての教会に宛てられて読まれる手紙となるのです。それは、過去と未来をつなぐ一本の道の中に置かれてある、今、現在において、キリストの教会が励ましを受けるべく読まれる手紙となるのです。

「命名は聖書から」

小川 塩子

【代々の切望をこめて】

長女が妊娠した時、本屋で山のように並ぶ命名参考書なる存在を知った。字画、運勢占い、流行、有名人事例などを観ながら、人々は親の切望をこめて購入するらしい。

我が夫の家は旧家で、代々男児が誕生すると江戸時代から延々と、貞の一字を入れて命名している。家系図を頼りに、貞の後の一字が重ならないよう親戚に気遣ってである。

「小川家が途絶えないよう、男児が生まれるまで頑張れ！」とどなたかに言われた苦い思い出もあるが、与えられたのは娘二人だったので、実家の命名法を強行してしまった。夫は貞元、義弟は貞信だが、義父母はクリスチャンになり、小川家伝来に支障のないやり方で、貞〇の〇字を聖書から引用していたことを後に義母から聞かされ安心した。

貞元の元は、創世記 1 章 1 節（文語体）から「はじめに神ありき・・・」の一字である。

貞信の信はコリント信徒への手紙Ⅰ 13 章の信仰・希望・愛の箇所から引用している。

長女幸子（さちこ）は、マタイによる福音書 5 章山上の垂訓からであるが、当時役所に届けたら、サチと常用漢字に使用しないので、ふりがなを振るようと言われ、主人は憤慨して帰ってきた。

{貧しいものが幸いとは・・・} 娘は表向き幸せだが、神の示す貧しさを受け入れているだろうか？ 娘は信仰者の家には嫁いでいない。

二人の息子にも家代々受け継がれている男児に伝わる一字ではなく、真の主に出

会うよう願いを秘めた命名をしている。

次女牧子（まきこ）は詩篇 23 篇「主は我が牧者なり・讃美歌にもなった聖句の引用だ。

丑年の羊である娘の牧場はアメリカにまで舞台が移り 20 年も経つ。主の牧場にふみとどまり、カトリック信者の米国人と家庭を築いた。昨年二人の間にハーフの女兒が誕生。

教会の皆様にはご無沙汰ばかりなのに、我が事のように祝福していただき感謝である。

婿殿から「塩子ばあにミドルネームを日本語で考えて」と注文がきて、うろたえた。カトリックには天使や聖女の洗礼ネームを使用する習慣があるのに、プロテスタントの実家の事も配慮し、国籍選択の成人になるまでとアルファベットと漢字ちゃんぽんとなった。

とっさに思い出したのは、小川家のゴッドマザー（別称 春日野局）こと義母の愛唱聖句でもあるコリント信徒への手紙Ⅰ 13 章 13 節の残り部分だ。この聖句引用は夫の実弟、貞信の命名箇所の続きであり、子子孫孫小川家から 1%弱人口が増えるかもしれない。1%弱とは日本のキリスト教人口である。きっと天国からお局様の ok サインが出るに違いないと思った。

義母は柿ノ木坂教会幼児グループから、ベテル幼稚園に改名されたとき、ベテル＝神の家（創世記 28 章 19 節に由来）に納得したが、そのキリスト教教育の精神については、コリント信徒への手紙の方を力説していた。

【信仰・希望・愛・・・】

私もベテル幼稚園の主任として引き継ぐことになった時、この箇所を心して保育にあたった。

かくして、アメリカに生まれた子孫のミドルネームは愛希(アキ)となり、ママの(マキ)と韻を合わせて神の牧場の仲間入りとなった。

神の家ベテルから教会で育てられ、信仰・希望・愛を実践する卒園生やご家庭に出会えてきた。

我が家だけでなく、それらの各地に広がった人々の平安を主に祈りたい。

礼拝ではあまり賛美されないが、様々な想いをこめて ♪546 番を掲げたい。

【終生 格闘かも】

1947 年、日本敗戦後、私は母の手に引かれて旧満州から引き揚げてきた。母の背中のリュックには、牧師であった実父の大事な「教団司式代」とコンコルダンス一冊、そして私のアルバムだけが一緒に日本まで運ばれた。

アルバムの 1 ページには「塩子命名と生育の記」とあり、マタイによる福音書 5 章 13 節が文語体で記されている。祖母を始め、親戚や知人に「かわいそうな珍名」と大反対されたこともある。

名前ゆえのイジメは幼少から大学まで続いたが、両親は知るよしもない。色気が無く、塩気ばかり・・・と年頃には相当落ち込む言葉ももらった。

1%弱の世界では「まァ ご立派なお名前ですね、さすがクリスチャンホーム！」とお褒めもあるが、CS 期にはある意味イジメに感じた。

父は我が子に切望して、牧師たる面目も果たしたのかもしれないが、信徒にならな

ければ私はこの珍名を勝手に改名したに違いない。

名づけておきながら、小川家に嫁ぐことになった時、「小川さんじゃ、やがて海に流れて塩子はもっと辛くなるなあ、サトウさんならちょうどよいのに」などとワル乗りしていた。

主人はサラリーマンであった。サラリーマンとは、塩で財を成功したり権力を持った古代ローマ人が語源だにご存じだろうか？ サラリー (salt) 塩子と出会ってどうなんだろうなどと・・・

“汝ら地の塩、世の光、もし其の効用なくば地に捨てられ、踏みつけらるるのみ”とある。子ども心に怖く哀しかった。“効用無くば踏みつけられる”なんて脅し文句が付け加えられているようで必死に聖書の示す効用箇所を探したが、ヒントがあっても明答箇所は見つからない。

古今東西、塩をめぐる興味深い話は数多い。日本では特に神事や風習、ゲン担ぎなど食事の味付け以外の塩は重要なアイテムである。

海外の岩塩も買い揃え、日本に 113 社もある塩釜神社や伊勢神宮の製塩奥宮など、長野にみられる塩街道の旅など、おかげで雑学も増えたのはありがたい。

ベテルの園児たちは「塩子先生って本当に塩で出来てるの？」と近寄り私の腕を舐めていた。からい先生であったのかも。

私は聖書が示す塩の効用をいまだに獲得できていない。ずっと答えを探して格闘が続くのだろう。神の摂理とやらで・・・・・・

♪掬えたまえ、我が身を・・・・521 番の讃美歌にこのテーマの心境をあてはめている。

☆☆☆教会の行事☆☆☆

——今まであったこと——（定例行事は除く）

- ◇7月12日（日）礼拝後園舎で、ケニア在住の海外在住会員・公文和子姉による「シロアムの園」報告会が開かれた。（詳細は教会報170号参照）
- ◇7月19日（日）韓国・大韓イエス教長老会（統合）セムナン教会主任担任牧師、李秀英先生が礼拝説教をされた。
- ◇教会学校サマープログラム
 - 7月26日（日）幼稚科デイキャンプが行われた。
 - 8月2日（日）～4日（火）小中学科丹沢サマーキャンプが行われた。
 - 8月30日（日）ジュニアチャーチ夕涼み会が行われた。
- ◇8月30日（日）礼拝後、拡大長老会が開かれた。
- ◇9月27日（日）主日礼拝は高齢の方々などに配慮した聖餐礼拝として行われた。

——これからの予定——

- ◇10月3日～12月5日、毎週土曜日19：30より「伝道会」（求道者会）が開催される。
- ◇10月12日（月・体育の日）11：00～14：00 2015年度教会バザーが開催される。
- ◇11月1日（日）聖徒の日記念礼拝。
- ◇11月29日（日）礼拝後、学びの会が開かれる。
- ◇11月29日（日）待降節第1主日（アドベントに入る）。信仰・希望・愛・・・
- ◇12月20日（日）降誕祭礼拝（クリスマス）。
- ◇12月24日（木）19：00～聖夜礼拝。

♪♪♪♪ 賛美歌よもやま話 ♪♪♪♪

9月5日（土）、日本賛美歌学会第15回大会が立教大学諸聖徒礼拝堂で開かれました。

「新しいドイツのカトリック教会歌集」という主題で、ドイツのマインツ大学教授（典礼学、賛美歌学）の講演がありました。マインツ大学には、歴史的にドイツ語圏の賛美歌集が集められているとのことでした。

午前は、場所が立教ですから聖公会のやり方で開会礼拝が行われ、そのあと、「ドイツ語圏教会歌集の歴史」。中世の口伝による伝統や、ルターによる賛美歌集、改革派の賛美歌集、カトリックのその後の動き、そして現代に至るまでの歴史についての講演。

午後は、1975年版 *Gotteslob* ゴッテスロープ＝神を讃美（せよ）の改訂作業グループが1999年に発足し、2013年に新しいカトリック共通教会歌集 *Gotteslob* が発行されるまでの経緯と、その内容について、実際にいくつかの曲を共に歌ってみながらの講演がありました。

新しい歌集の構成は「日々の生活のための霊的な手助け」（家庭での祈り、信仰生活などの歌）、「詩編、賛歌など」、「典礼祭儀」（カトリックの典礼で使う歌）となっており、讃美歌21などの構成と似ていると思いました。

特長的なのは、プロテスタントの賛美歌（以前からの曲を含め78曲）、これまで外されていた古いカトリックの聖歌の見直し再録、東方教会の歌、ドイツや周辺国の現代の歌からも採用されていることです。かなりエキキュメンカルな動きを感じました。

賛美歌は、どこの国でも社会の変化と共におよそ30～40年ごとに改定されています。

ドイツ語圏のプロテスタント教会では、ドイツで1993年、スイスで1998年に改訂された賛美歌集が発行され、用いられています。日本でもプロテスタント教会では、讃美歌21（日本基督教団他1997年）、新聖歌（日本福音連盟2003年）、新生讃美歌（バプテスト連盟など2003年）、聖歌集（日本聖公会2006年）、教会福音讃美歌（福音派諸教会2013年）など改訂版が発行されました。また、日本福音ルーテル教会では教会讃美歌、日本のカトリック教会でも、典礼聖歌の改訂が進められています。（井澤浩一）

教会学校 2015年サマープログラム報告

桒田 恒

いつも教会学校を覚えてくださり、お祈りと支えに感謝致します。

毎週教会学校では子どもたち・保護者・教師 100 名余が集い礼拝を守っています。今年も期首より教会学校の夏の計画を話し合っていました。例年この時はいつもの礼拝・プログラム・環境と異なる中で新たな刺激を受け、聖書に向かい、友だちと語り過ごす貴重な機会になってきました。

今年も各クラスでサマープログラムを実施することができました。楽しかった夫々のイベントのご報告をさせていただきます。

1. 幼稚科デイキャンプ 7月26日(日)

昨年は教会の 10 年目の改修に当りデイキャンプを見送りました。2 年振りの開催です。

13 時から礼拝を守り、静かに渡邊先生のおはなしを聞きます。礼拝が終わるとお待ちかねの「プール遊び」です。渡邊先生が率先してプールへ、先生たちも子どもたちと水を掛けあいずぶぬれ。

大きいクラスの子どもたちの作ったフルーツポンチをいただき、とても大きな絵本を読んでもらい、お祈りをして閉会です。存分に楽しみ大満足のようでした。参加者は生徒 23 名、保護者 2 名、教師 10 名、計 35 名でした。



2. 小・中学科丹沢サマーキャンプ 8月2日(日)から4日(火)

今年の丹沢キャンプは小学科 22 名、J C 3 名、幼稚科 1 名と保護者 3 名、教師 9 名、計 38 名の参加でした。昨年よりも参加者が増え、ミニバス 2 台で出発。

キャンプのテーマは「イエスさまは良い羊飼い、わたしたちはその牧場の羊たち」です。“ちいさいひつじが いえをはなれ”の懐かしい(子どもたちには特に懐かしい訳ではない)子ども讃美歌をテーマソングに、4 回の礼拝で聖書のみ言葉に耳を傾けました。

- 礼拝 1. 「主は羊飼い、わたしたちは羊」
・・・・・・・・・・(詩編 23 編)
- 礼拝 2. 「良い羊飼い」・・・・(ルカ 15 章)
- 礼拝 3. 「イエスさまは羊飼い」
・・・・・・・・・・(ヨハネ 10 章)
- 礼拝 4. 「わたしたちも羊飼いに」
・・・・・・・・・・(ヨハネ 21 章)

です。

渡邊先生から「イエスさまはわたしたちの良い羊飼い、わたしたちはイエスさまに愛されている羊、わたしたちも羊飼いになれます、イエスさまのことを伝えましょう。」と皆に語りかけてくださいました。

分級では各クラスの歌、手話、ペープサート、きり絵で学んだ成果を発表しあいました。恒例の川あそび、マスつかみ、丹沢ホームの



中村道也さんのスライドと夜の動物見学ドライブと楽しみ満載、天気も大当たり、祝されたキャンプでした。



3. JC(ジュニアチャーチ)夕涼み会

8月30日(日)

夏休みの最後の日曜日の夕方、JCの夕涼み会が開催されました。生徒5名、教師6名、計11名の参加です。4時頃から食事の準備を始め、タコ焼き、焼きそばが出来上がった時点で丁度6時夕食の時間となりました。

竹内神学生により開会礼拝、マタイによる福音書7章「求めなさい、探しなさい、門をたたきなさい」のみ言葉を聞き、生徒の食前の祈祷で楽しい食事です。普段の礼拝、分級の時間ではなかなか親しく話す機会もありますが、時間を掛けた自己紹介に質問殺到で大いに盛り上がりました。渡邊先生の弾くウクレレ「大きなのっぽの古時計」にしばし聞

き惚れ、気が付けば8時が過ぎていました。

楽しい夏のひと時を感謝して、次週の礼拝での再会を約し散会となりました。



今月のメッセージ

ー10月のホームページ巻頭言からー

ホームページもご覧ください

<http://kakinokizaka-church.com>

さて、祭りのとき礼拝するためにエルサレムに上って来た人々の中に、何人かのギリシア人がいた。彼らは、ガリラヤのベトサイダ出身のフィリポのもとへ来て、「お願いします。イエスにお目にかかりたいのです」と頼んだ。フィリポは行ってアンデレに話し、アンデレとフィリポは行って、イエスに話した。

(新共同訳聖書・ヨハネによる福音書
第12章20～22節)

10月、体育の日、毎年わたしたちの教会では教会バザーを計画、準備し行ってきました。今年も10月12日(月)午前11時から開催です。来年は、10日(月)に開催予定です。

もう余力はないとバザーを取りやめにしたというのをいくつもの教会で聞きます。わたしも前任地の教会で長年続いてきたバザーを取りやめにしたことがあります。かつては現役として働く世代の積極的な参加や多くの献品もありましたが、これもだんだんに少なくなってきたもう開催は難しいと取りやめにしました。寂しいことでした。今は、例えば100均でも手頃ないいものを買えます。かつてのようにバザーがお得感のある品物を揃えているというのも難しい時代になってきています。教会員は、年々、歳が進み少しずつ力が衰えてきています。これを補うだけの若い、新しい教会員の誕生をと願いますが、なかなか果

たせないでいます。

一方、わたしたちの教会バザーには幼稚園のお母さん、お父さん方の大きな協力があります。この協力がある今も活気のあるバザーとして続けられているとも言えましょう。有難いことです。子育ての世代です。子供たちは、1年経つとあっという間に着る物も履く物も小さくなってしまいます。このリサイクルは有用です。我が家の子たちもよくお世話になりました。遊ぶ物も次々に変わっていきます。あの子にはもう飽きてしまった物でも、この子には新しい宝物です。この旺盛な活気に後押しされて、今年もおじいちゃん、おばあちゃん世代の教会員たちもがんばります。

教会らしいバザーとは何かを考えます。地域へのニーズ、奉仕が第一でよいだろうかと思います。祭りの最中でキリストにお会いすることを求めに来たギリシア人の姿には大切なことが表現されているように思います。そして、これを取り次いだ弟子であるフィリポ、アンデレたちの行為も同じように大切です。キリストが一人でも多くの人々に伝えられる機会として。このことが後回しになる教会「バザー」は単なる商売になってしまうでしょう。そうはならない「教会」バザーを求めることはできないかと考えます。

(牧師 渡邊 義彦)

——編集後記——

- ・今年の夏は早い梅雨明けと共に、猛暑。そして8月後半は一転して気の早い秋の長雨。さらに9月に入って水害。被災地の方々を思い、祈ります。
- ・サマーキャンプなどCSの子どもたちは、恵まれた時を過ごすことができました。主に感謝します。
- ・私の聖句・讃美歌は4回目。それぞれの方々の心に響くすばらしい証が楽しみです。今後も執筆を依頼された方、よろしく願いいたします。
- ・教会報へのご意見・ご感想を編集委員まで、お寄せください。(K.I)

集会案内

主日礼拝 日曜日 午前10時30分
聖餐夕礼拝 第1日曜日 午後5時
入門講座 日曜日 午前9時30分
教会学校 日曜日 午前9時
(幼稚科、小学科、ジュニアチャーチ)
*ジュニアチャーチは中学生、高校生です。
聖書と祈り会 水曜日午前10時、午後7時30分

日本基督教団 柿ノ木坂教会
〒152-0022 東京都目黒区柿の木坂 1-31-19
電話 03-3717-3870 (教会・牧師館)
03-3723-3870 (ベテル幼稚園)
牧師 渡邊 義彦